

不備や支障もないのに条例改定！？ 積立金の厳格な使い方を緩和！「忖度」では透明性が確保できない

目的も使い方も不透明な積立金

改正理由が見当たらない

積立金の名前は『教育、文化及びスポーツ施設整備等基金』で、取り崩す対象は、学校や公民館などの建設や改修、用地購入などに『施設整備』限定されています。

市教育委員会は、用途が限定されていることによる「支障はない」、備品や日常使用する施策は一般財源の経常経費で対応し、「不備はない」とのこと。また、積立の目的であるハード面の整備についても、「まだまだ残っている」としています。

不透明な取り崩しに道開く

では、条例改正でどこが変わるのでしょうか。

『施設整備等』を『振興』に変え、取り崩し対象は、「より広く」とのこと。少額の備品購入も大量発注すれば積立金を使えるのです。つまり、楽器の購入や文化行事への助成：なんでもあります。

時の市長や議員などが利益のため、選挙のため、議案の態度への協力にと：不透明な取り崩しに道を開く危険性が大きくなります。

「透明性を高める必要がある」と答弁

では、なぜ変えるのでしょうか。

「ふるさと納税を増やすため」

と理由を繰り返す市当局に、小田桐市議は「条例改正で寄付を増やせる根拠や目標は？」「H29年6

9月13日、市内スポーツフィールド建設工事をめぐる契約変更議案が市議会総務委員会審査で継続審査となつたことを産経新聞が報道。議会承認後の「使用変更」「議決前の工事実施」に行政手続き上の不透明さ、忖度による行政の私物化が指摘されています。今度は「忖度」により積立金まで取り崩せる内容の条例改正も提案されており、透明性がこれまで以上に強く求められています。

月、市長部局では基金条例は変えず、サブタイトルなどを付けて寄付目的を分かりやすくする」とした議会答弁との整合性は?」と追求。「あくまでも寄付。増やす根拠や目標はない」「生涯学習部で市の予算では事業展開が難しい」と答弁しました。

小田桐市議は、積立金は生涯学習部だけのものではないと指摘し、「100%の予算ではなくとも、その予算と人員で経年的に事業展開を行い、市民サービスを向上させていくのが計画行政ではないか」と積立金の安易な取り崩し姿勢を批判しました。

「透明性を高める必要がある」との学校教育部長答弁をうけ、小田桐市議は、「透明性を担保するルールを議会で議論すべき」と継続審査を提案しましたが、1対5で否決され、議案は5対1で可決しました。

井崎市長の命を受けH20年3月に創設された同積立金は、教育関連施設の建設・改修、用地確保のため10年で17億円の積立を計画。しかし、創設後は目標も曖昧になり、どうどう取り崩す対象も曖昧になりました。

自分で作った条例を自分で壊すのではありません。

—『多選の弊害』が表面化しているのではないでしょうか。